



2017年（平成29年）10月期

決算説明会資料

株式会社オービス

代表取締役社長 なかはま 中浜 ゆうじ 勇治

（東京証券取引所（ジャスダック市場）、証券コード：7827）

2017年12月22日



2017年10月期 決算説明会資料

PART1 会社の概要

PART2 2017年10月期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2018年10月期の個別業績予想

PART5 中期計画の概要

梱包用木材の国内最大手

当社は、木材、ハウス・エコ、ライフクワイエット、不動産の4つの事業を基盤にビジネスを展開しております。特に主力の木材事業では、梱包用木材の製材及び販売において、国内最大手の評価を頂いております

会社名	株式会社オービス (ORVIS CORPORATION)	社名の由来 オービス (ORVIS) とは、ラテン語で「創設者・出発点」という意味を持つ「origao」と「パワー・効力」という意味の「vis」を組み合わせた造語です みなぎる活力で未来を創造していきたいという企業テーマを象徴しております
設立	昭和34年11月	
代表取締役社長	中浜 勇治 (なかはま ゆうじ)	事業拠点 福山本社 大阪 仙台 姫路 東京 岡山 千葉 豊栄 名古屋 広島
資本金	6億8,498万円	
従業員数	177名 (2017年10月末現在)	
売上高	81億円 (2017年10月期末)	
事業内容	梱包用材等の製造、販売、プレハブハウスの製造、販売、仮設建物等のリース、一般建築及び太陽光発電システムの請負、自然エネルギー等による発電事業、フィットネスクラブ及びゴルフ場の運営、不動産の賃貸及び売買	
本社	〒729-0104 広島県福山市松永町六丁目10番1号	
連結子会社	該当なし (2016年05月に株式会社バルを吸収合併)	

経営理念

顧客満足・社員満足

当社の経営理念「顧客満足・社員満足」は、「お客様が満足して使用できるものを生産・提供することにより社会に貢献し、それにより社員の生活の向上を図り、株主の皆様にも利益を還元していく」という意味をあらわしております

■ 当社の主要な沿革

昭和34年11月	有限会社中浜材木店を設立	平成14年11月	中須ゴルフ倶楽部の営業譲渡を受け、営業開始
昭和37年05月	広島県世羅郡世羅西町 (現世羅町) に製材工場を建設	平成15年05月	広島県福山市に賃貸マンションを取得し、不動産賃貸開始
昭和43年03月	ニュージラード松の製材工場建設 同時にプレハブ部材の生産開始	平成18年09月	ジャスダック証券取引所に上場 (現東京証券取引所JASDAQ市場)
昭和46年06月	広島県福山市に製材工場移転 同時にプレハブハウスの完成品を販売開始	平成20年08月	木材事業姫路工場稼働開始 (平成26年11月閉鎖)
昭和49年09月	有限会社中浜材木店を組織変更し、中浜木材株式会社を設立	平成22年02月	太陽光発電パネル等の施工・販売の開始
昭和62年12月	広島市西区に賃貸ビルを建設し、不動産賃貸開始	平成27年11月	フィットネスクラブ「スポバル」オープン
平成01年04月	カラオケハウスの製造販売開始	平成28年01月	カラオケ事業から撤退
平成04年04月	株式会社オービスに商号変更	平成28年04月	広島県福山市松永町へ本社を移転
平成12年12月	パナマにTUI MARITIME S.A.を設立 (平成26年09月解散)	平成28年05月	株式会社バルを吸収合併
平成14年08月	木材運搬船「グリーンホープ」(最大積載量35,000トン) 完成、航海開始 (平成26年05月売却)		

PART1 会社の概要

PART2 2017年10月期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2018年10月期の個別業績予想

PART5 中期計画の概要

1. 要約貸借対照表

(単位：百万円)

摘要	2016年 (個別)	構成比	2017年 (個別)	構成比	増減
◆ 流動資産	4,493	44.7%	4,833	34.4%	339
◆ 固定資産	5,565	55.3%	9,230	65.6%	3,664
資産合計	10,058	100.0%	14,063	100.0%	4,004
◆ 流動負債	3,975	39.5%	7,784	55.4%	3,808
◆ 固定負債	3,782	37.6%	3,719	26.4%	△63
負債合計	7,758	77.1%	11,503	81.8%	3,745
純資産	2,300	22.9%	2,559	18.2%	259
負債・純資産合計	10,058	100.0%	14,063	100.0%	4,004

◆自己資本比率
22.9% 18.2%

◆有利子負債比率
56.7% 63.7%

主な増減理由

- > 流動資産⇒現金及び預金 △393百万円(前期は売電目的の太陽光発電所に係る借入により、預金残高が一次的に増加)
⇒完成工事未収入金 +193百万円(ハウス部門の回収期間が長い官公庁大型物件の売上計上により増加)
⇒リース未収入金 +167百万円(ハウス部門の回収期間が長い官公庁大型物件の売上計上により増加)
⇒その他 +281百万円(木材福山工場の建物(事務所棟・工場棟)及び製材機械の本体・据付工事費に係る消費税等の還付金)
- > 固定資産⇒機械及び装置 +225百万円(売電目的の太陽光発電所の取得)
⇒建設仮勘定 +3,377百万円(木材福山工場の建物(事務所棟・工場棟)及び製材機械の本体・据付工事費)
- > 流動負債⇒短期借入金 +3,250百万円(木材福山工場の建物(事務所棟・工場棟)及び製材機械の本体・据付工事費に係るつなぎ資金)
⇒未払金 +212百万円(木材福山工場の製材機械の本体・据付工事費に係る未払債務)
⇒設備関係支払手形 +160百万円(木材福山工場の建物(事務所棟・工場棟)の建設に係る手形債務)
- > 固定負債⇒大きな変動なし
- > 純資産 ⇒利益剰余金 +252百万円(当期純利益の計上)

2. 要約損益計算書

(単位：百万円)

摘要	2016年 (個別)	百分比	2017年 当初業績予想 (個別)	2017年 (個別)	百分比	対前期比	対業績 予想比
売上高	8,957	100.0%	8,281	8,118	100.0%	90.6%	98.0%
売上総利益	1,646	18.4%	1,551	1,404	17.3%	85.3%	90.5%
販売費及び 一般管理費	1,067	11.9%	1,241	1,197	14.7%	112.2%	96.5%
営業利益	579	6.5%	310	207	2.6%	35.8%	66.9%
経常利益	547	6.1%	245	163	2.0%	29.8%	66.5%
当期純利益	523	5.8%	219	278	3.4%	53.2%	127.0%
1株当たり 当期純利益	302円25銭	—	126円68銭	160円86銭	—	—	—

主な増減理由

- ▶ 木材事業⇒⇒⇒〔受注及び生産は好調に推移、スギ・松・北海道カラ松等の商材販売量も過去最高を記録したものの、原材料価格の上昇分を販売価格へ転嫁できなかったことで、増収・大幅な減益〕
- ▶ ハウス・エコ事業⇒⇒⇒〔前期に大型物件の完工が相次いだ反動減に加え、大型物件での逸注により、大幅な減収・減益〕
〔売電目的の太陽光発電所の稼働は、前期末の8.5MWから11MWへ増加、収益に貢献〕
- ▶ 不動産事業⇒⇒⇒〔販売用不動産の引渡物件が減少したことにより、大幅な減収・減益…賃貸マンションは8割を超える稼働率を確保〕
- ▶ ライフクワイエット事業⇒⇒⇒〔ゴルフ場部門は過去最高の来場者数を記録し、好調に推移〕
〔開店2年目のフィットネス部門の赤字幅は大幅に減少したものの、会員数は年間を通して横ばいで推移〕
- ▶ 全体⇒⇒⇒〔主力事業の木材事業において、原材料価格の上昇分を販売価格へ転嫁できなかったこと及びハウス・エコ事業の売上減によつて、繰延税金資産の計上による税金費用の減少があったものの、減収・大幅な減益〕

3. 要約キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

摘要	2016年 (個別)	2017年 (個別)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,623	△69
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,139	△3,530
財務活動によるキャッシュ・フロー	753	3,206
現金及び現金同等物の期末残高	806	413

フリーキャッシュ・
フローの獲得が課題

主な増減理由

- ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー
 税引前当期純利益 +187百万円
 減価償却費 +316百万円
 仕入債務増加額 +179百万円〔2017年10月度の国産スギ丸太の仕入増加及びハウス部門の売上高増加〕
 売上債権増加額 △369百万円〔ハウス部門の回収期間が長い官公庁大型物件の売上計上により増加〕
 その他 △365百万円〔消費税等の還付金〕
- ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー
 有形固定資産の取得による支出△3,545百万円
 〔売電目的の太陽光発電所の取得及び木材福山工場の建物（事務所棟・工場棟）及び製材機械の本体・据付工事費〕
- ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー
 短期借入金増加額 +3,250百万円〔木材福山工場の建物（事務所棟・工場棟）及び製材機械の本体・据付工事費に係るつなぎ資金〕
 長期借入収入 +1,135百万円〔既存借入金返済資金350百万円（借換）、
 売電目的の太陽光発電所設備資金385百万円、
 ハウス部門官公庁長期回収物件施工代相当額400百万円〕
 長期借入金返済 △1,130百万円〔約定弁済〕

4. セグメント業績 木材事業

- 販売の基本方針は、安値販売を排除し、適正な販売価格を維持すること（必要以上に出荷量の拡大を問わず）。
 - ✓ お客様への営業訪問回数を増加し、顧客ニーズを的確に把握。
 - NZ材等の製品出荷量は87千m³（前期比105.1%）。
 - 丸太価格（NZ松）は、最大消費国の中国需要が旺盛で高騰（前期比114.1%）。
 - 生産及び受注は好調を維持。丸太消化量は140千m³（前期比105.8%）。
 - NZ材等製品平均販売価格は、競合樹種であるチリ材の安値販売の影響で低下（前期比97.8%）。
 - ✓ 原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁できず苦戦を強いられる。
 - 国産スギ・桧・北海道カラ松等の商材販売量は51千m³（前期比112.2%）と過去最高を記録。短納期対応のものや本社工場（広島県福山市）から遠方（関西以東）のお客様には、商材販売を積極的に活用。
 - ✓ 関西以東のお客様への供給体制を更に強化するため、北海道カラ松等の新規仕入先を重点的に開拓。
 - ✓ 商材仕入に係る物流コストの削減を目的に、配送手配業務を当社手配へ切り替え。
 - NZ材等製品出荷量及び国産スギ・桧・北海道カラ松等の商材販売量の合計は137千m³（前期比107.6%）。
 - 国産スギ丸太の供給先を開拓。商社を含め13社と安定供給協定を締結。



(単位:百万円)

摘要	2016年 (個別)	百分比	2017年 (個別)	百分比	対前期比
売上高	4,755	100.0%	5,029	100.0%	105.8%
営業費用	4,375	92.0%	4,922	97.9%	112.5%
営業損益	380	8.0%	106	2.1%	28.1%
平均為替 レート	114円92銭	—	110円37銭	—	96.0%

4. セグメント業績 ハウス・エコ事業

- 前期に大型物件の完工が相次いだ反動減に加え、大型物件での逸注により売上高は25億62百万円（前期比68.8%）にとどまる。
 - ✓ 当期は公共・民間工事も、請負金額が数千円クラスが主体。億単位の大口案件が減少。
 - ✓ 粗利率の向上を目的とした受注時採算性の強化、原価・施工管理の徹底を継続。
 - ✓ 引き続き、官公庁の仮設校舎や放課後児童クラブ等の入札へ積極的に参加。
 - ✓ 重量鉄骨造での工場・倉庫や学校関連を中心とした官公庁施設の伸長分野への営業強化を図る。
 - ✓ 施工管理要員の積極的な採用を継続するとともに、施工管理者の育成に注力。
- 太陽光発電所の売電収入は4億1百万円（前期比190.4%⇒上記数値の内数）。
 - ✓ 太陽光発電所の発電規模は、前期末の約8.5MWから約11MWへ増加。2018年2月には約1.5MWが稼働予定。
 - ✓ 当社の太陽光発電所は自社施工。一般的な施工価格に比べ2～3割安く施工することが可能であり、その結果、投資利回りが非常に高く投資額の回収期間は5年～7年を想定。

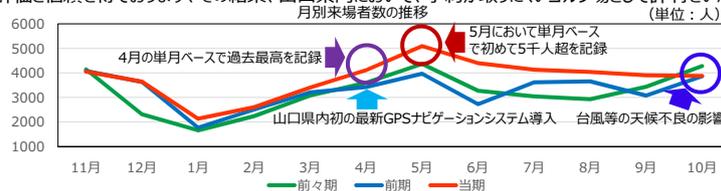


(単位:百万円)

摘要	2016年 (個別)	百分比	2017年 (個別)	百分比	対前期比
売上高	3,723	100.0%	2,562	100.0%	68.8%
営業費用	3,381	90.8%	2,340	91.3%	69.2%
営業損益	341	9.2%	222	8.7%	65.1%

4. セグメント業績 ライフクリエイト事業

- ▶ ゴルフ場部門は、積極的な設備投資を行い新たな事業基盤を構築し、他コースとの差別化に努めた結果、過去最高の来場者数を記録（前期比114.8%）。
- ✓ 一層のサービス向上とゴルフカートや作業機械設備の更新、最新GPSナビゲーションシステムの導入等により、プレイヤーから高い評価と信頼を得ております、その結果、山口県内において、予約が取りにくいゴルフ場として評判をいただいております。



中須ゴルフ倶楽部のGPSナビ (上段)
スポルビル緑町店のインドアサイクル (下段)

- ▶ フィットネスクラブは、女性向けのインドアサイクルや体組成計の導入により新たなサービスの提供開始。新規入会者の獲得と退会者の抑制に注力。
- ▶ 2017年10月末の会員数は1,074名（前期比94.0%）となり、毎月の入会者数と退会者数がほぼ同数となるなど、苦戦を強いられました。(単位:百万円)

摘要	2016年 (個別)	百分比	2017年 (個別)	百分比	対前期比
売上高	221	100.0%	417	100.0%	188.7%
営業費用	276	125.1%	414	99.4%	149.9%
営業損益	△55	-%	2	0.6%	-%

※2016年の各数値は、連結子会社であった株式会社バルを平成28年5月1日付で吸収合併したことにより、ゴルフ場部門の5月から10月までの数値を記載しております。

PART1 会社の概要

PART2 2017年10月期の個別業績

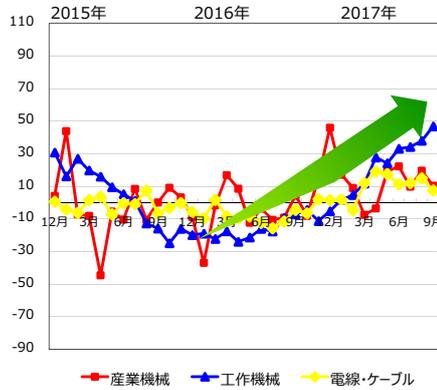
PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2018年10月期の個別業績予想

PART5 中期計画の概要

■ 木材事業の市場環境 ①～梱包用材のエンドユーザーの環境

▶ 産業機械及び工作機械の受注状況
内閣府経済社会総合研究所
機械受注統計調査



✓ 受注はいずれも回復傾向

▶ 輸出の状況 (財務省貿易統計) (十億円, %)



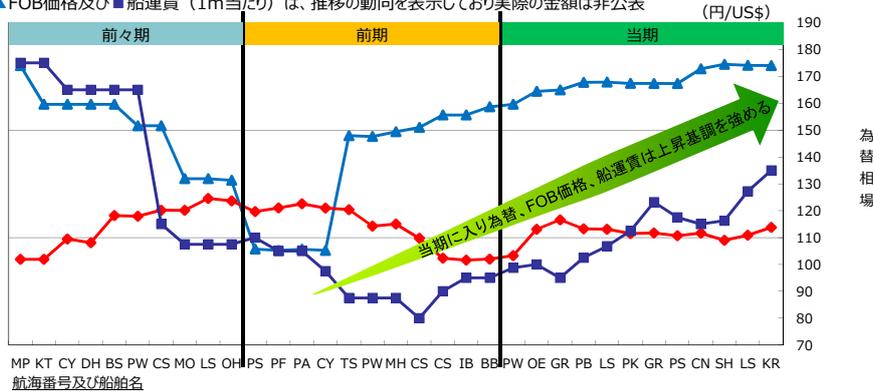
✓ 輸出金額は増加傾向、輸出数量は依然として低調

■ 木材事業の市場環境 ②～原材料仕入コストの環境

▶ 為替、FOB価格 (ニュージールランド産ラジアタ松)、船運賃の推移

■ 為替は、各航海の平均為替レートを表示 (右軸)

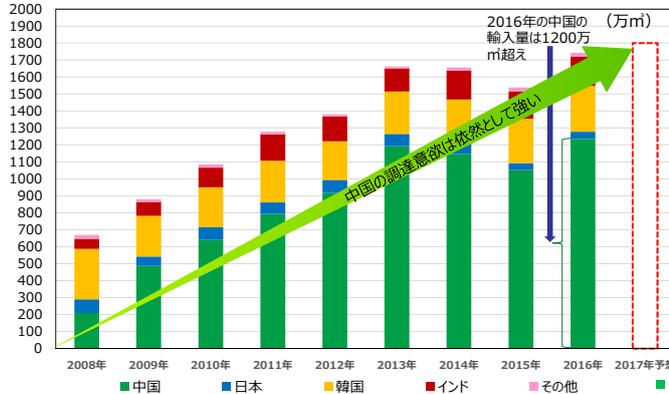
▲ FOB価格及び ■ 船運賃 (1m³当たり) は、推移の動向を表示しており実際の金額は非公表



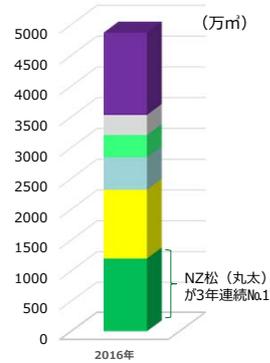
- ▶ 為替 (対米ドル) は、トランプ氏の米国大統領選挙の勝利 (2016年11月) を受けて、101円から1ヶ月で118円へと急激に円安が進行。その後も110円台で推移。
- ▶ FOB価格は、ニュージールランド国内の移民向けを中心に住宅価格が上昇しており、木材需要が旺盛なことに加え、最大消費国である中国の需要増によって、年間を通して上昇基調を維持。
- ▶ 船運賃は、中国の鉄鉱石輸入量の増加の影響等で、全体的な荷動きが活発となり、原油価格の上昇と相まって、2016年の夏場以降、上昇基調に転じる。

■ 木材事業の市場環境 ②～原材料仕入コストの環境

▶ ニュージーランド産ラジアタ松（丸太）の国別輸入量



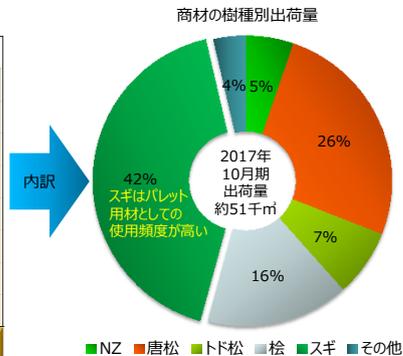
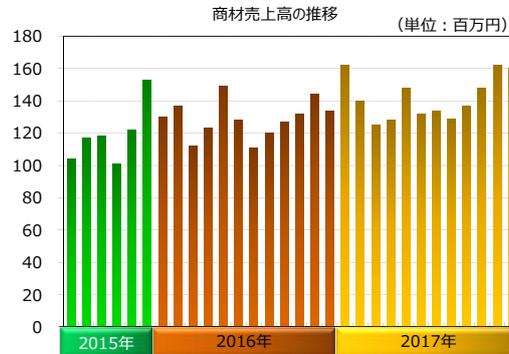
▶ 中国の国別丸太輸入量



- ▶ NZ松（丸太）全体の国別輸入量は、2016年において中国が1200万m³（全体の約7割、日本は約42万m³）超となり、過去最高を更新。
- ▶ 2017年の中国向け輸出量は、同国の天然木伐採規制の強化や需要の増加により前年比約9%増加し、1300万m³に到達する勢いであり、外材調達意欲が一層高まっている。港頭在庫については、300万m³前半の適正在庫量を維持、1日当たりの出荷量は約7万m³となっており、2018年も安定した需要が見込まれ、強基調に変化はない。

■ 木材事業：取組みの進捗状況

- ▶ 丸太消化量は140千m³（予算比102.3%）、丸太価格は予算比107.4%、製品出荷量は87m³（予算比101.3%）。
- ▶ 製品を適正価格で販売（予算比100.4%）〔安値販売の排除を徹底〕。
- ▶ 国産材（スギ・桧・北海道カラ松等）及びLVL等の商材を拡販。
 - ✓ 既存の販売ルートを活用、NZ材以外の商材を販売。
 - ✓ スギ・桧・北海道カラ松で商材出荷量全体の約9割を占める。
 - ✓ 北海道カラ松を主として仕入先の更なる開拓を行い、新規・休眠顧客の掘り起こしに注力。
 - ✓ 当期の商材売上高は17億11百万円（予算比116.9%）。
- ▶ 国産スギ丸太の仕入先を中国・四国・九州を中心に更なる開拓を実行。



■ 木材事業：今後の取組み ①～福山工場（新工場）の建設



✓ 2017年12月12日撮影

■ 木材事業：今後の取組み ②～福山工場（新工場）の建設

- ▶ 木材事業福山工場（新工場）の建設理由。
 - ✓ 昭和62年に建設され30年が経過し老朽化が進んだ現工場を移転し、更なる生産効率・品質の向上を図る。
 - ✓ 姫路工場操業停止（2014年4月⇒同年11月閉鎖）以降、2交代で操業を続ける現工場の労働環境を改善。
 - ✓ 広島県福山市から2016年2月に売却された近隣土地を落札。
- ▶ 木材事業福山工場（新工場）の概要。
 - ✓ 名称及び住所…株式会社オービス福山工場、広島県福山市柳津町1丁目11番8号
 - ✓ 総投資額…約49億円（銀行借入を予定）…うち約9.5億円は広島県からの補助金交付が決定済。
 - ✓ 工期…2016年11月～2018年3月（現工場から福山工場への移転は2018年5月を予定）。
- ▶ 福山工場（新工場）建設の主なメリット

摘要	現工場	福山工場（新工場）	メリット
原材料	NZ松（丸太）	NZ松（丸太）及び 国産スギ（丸太）	✓ 為替動向やFOB価格等の外的要因に影響を受けにくい国産スギを大量生産。品種の相違する原材料を調達することで安定的な原材料の確保と効率的な営業戦略を実行することが可能
年間生産量	約132千㎡	現工場と同量を 日勤のみで生産可能	✓ 残業や休日出勤の減少により1㎡当たりの製造コストを削減
工場敷地面積	約10千㎡	約21千㎡	✓ 現工場の2倍以上の敷地面積を有し、生産ラインの大幅な効率化を表現
工場従業員の勤務形態	日勤と夜勤の2交代制 （残業＋土曜日稼働）	日勤 （残業無の土曜日休暇）	✓ 工場従業員確保の問題解消 ✓ 労働環境の改善
歩留率	-	現工場より最低1%向上	✓ 1%の向上で年間30百万円～40百万円の利益増加
長さ4m超の製材	製材不可 （少量を外注生産）	長さ4m超も製材可能	✓ 大口輸出梱包業者への販路拡大 ✓ 納期大幅短縮に伴う受注の増加

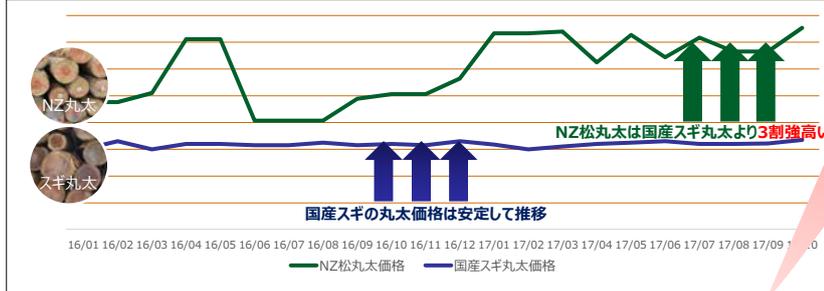
■ 木材事業：今後の取組み ③～福山工場（新工場）の建設

既存工場の弱点解消のための主な設備

- ① 最新鋭の製材機械の導入により2交代制の解消、残業時間の削減
- ② 長さ4メートル超の製品の防カビ処理が可能
- ③ チップ、オガ貯槽装置設置、車2台排出可能
- ④ 熱処理機3台の導入により外注費削減
- ⑤ 棚ソーターの導入により折れ材減少、歩留率向上
- ⑥ 長さ5メートル超の製品の供給体制確立

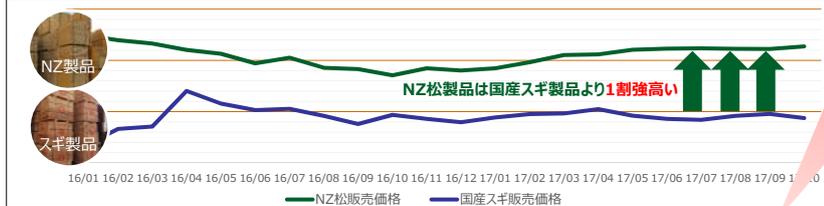
■ 木材事業：今後の取組み ④～福山工場（新工場）の建設

➢ NZ松と国産スギの丸太価格（1m当たり）の推移（仕入ベース）※実際の仕入単価は未公表



● 中国需要堅調、NZ松丸太は強基調
国内市況に関係なく値上げ要請続く

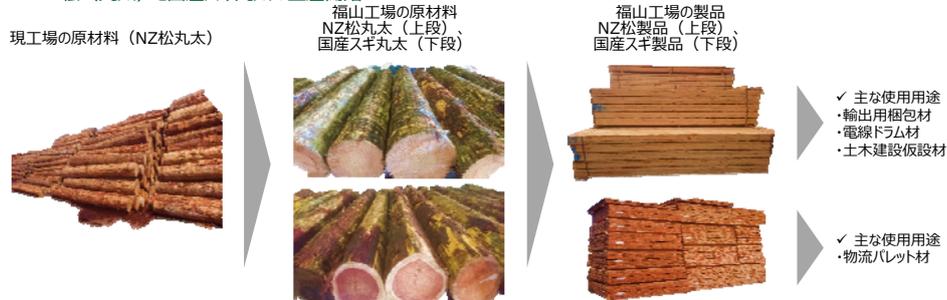
➢ NZ松と国産スギの販売価格（1m当たり）の推移 ※実際販売価格は未公表



● 国産スギの生産・販売を増やす程、収益性が向上

■ 木材事業：今後の取組み ⑤～福山工場（新工場）の建設

➢ NZ松（丸太）と国産スギ丸太の生産開始



- ✓ 主な使用用途
・輸出用梱包材
・電線ドラム材
・土木建設仮設材
- ✓ 主な使用用途
・物流パレット材

- 現工場（NZ松丸太生産）の製造コストに占める原材料費の割合は約8割（前期に比べ約5ポイント上昇）。
- 物流用パレット材は、国産スギ製品への代替が定着（1.5m超の長さでカットして使用）。
- NZ松（丸太）の現地価格は中国需要によって大きく変動。**国内の製材工場は梱包材・パレット材等の実需に関係なく原材料コストが大幅に変動し、利益を確保しづらい状況。**
- 樹種別で高齢級になるほど、スギ比率が高く今後スギ大径低質材の生産量の増加が予想され、十分な国内需要があるとは言い難い状況。
- 2016年全国の国産材生産量は2066万m³。そのうちスギは約57%の約1185万m³を占めており資源が豊富。
- 福山工場（新工場）で生産する国産スギ丸太は、一般的な製材工場（柱・梁桁等の生産）で需要が少ない大径低質材を活用。**NZ松（丸太）と比較して安価で調達（継続的）を行うことが可能。**
- 梱包材等は消耗資材であるため、お客様の最優先事項は**納期と販売価格**→安価な国産スギ丸太の大量生産→**更なるお客様ニーズに対応可能。**
- **原材料の調達（これまではNZ丸太1樹種）に対するリスクヘッジが可能。**

■ ハウス・エコ事業の市場環境

➢ 建設総合統計（出来高ベース）国土交通省公表



- ✓ 建設需要は、民間投資及び公共投資は持ち直しの兆し（公共投資も2017年4月以降プラスに転じる）が見られる。

●ハウス・エコ事業：今後の取組み

- 建設需要への取組み
 - ✓ 学校の耐震改修のための仮設校舎や放課後児童クラブ等の官公庁入札へ積極的に参加。
 - ✓ プレハブ建築以外の重量鉄骨造による在来工法やシステム建築等にターゲットを定め、億単位の大型物件の受注獲得と受注件数の増加を目指す。2017年11月には、工場棟の大型物件の受注を獲得（施工実績を評価いただき、ご紹介を受け成約に至る）。
 - ✓ 受注時採算性の強化による現在及び将来にわたっての利益率向上への更なるこだわり（利益率重視の取組みが浸透しつつある）。
 - ✓ 継続的成長を目指した計画的人材育成の実践。
 - ✓ 2018年は労務費の高騰や資材価格上昇等の懸念材料があるが、従来にも増して原価・施工管理の徹底を図り、現場力の強化を推進。

➢ 太陽光発電への取組み

- ✓ 再生可能エネルギー政策の転換に合わせ、50kW以下の低圧案件の取込みに注力。
- ✓ 一般電気工事の入札への積極的参加。

◆ 売電目的の太陽光発電所の稼働状況と稼働予定



◆ ゴルフ練習場棟



◆ 寮施設



◆ 重量鉄骨在来工法等（工場）



●ライフクワイエット事業：今後の取組み

- ゴルフ場部門は、お客様の利便性の向上を目的とした設備の導入・改修及び各種イベントを積極的に開催し、近隣コースとの差別化を図り、更なる魅力あるゴルフ場づくりへの取組みを実行。
 - ✓ 従業員チャレンジコンペの開催増加。
 - ✓ ゴルフカートの更新及びカート道路の改修工事。
 - ✓ フェアウェイへの目土を継続（良好なコース状態を継続的に維持）。
 - ✓ 静脈認証によるチェックインサービスのビジター様への普及。
 - ✓ 季節毎に厳選された食材をふんだんに使用した飲食メニューを提供。
- フィットネス部門は、オープン3年目を迎え、通期で営業黒字化を目指す。
 - ✓ 入会・紹介キャンペーンの実施、各種イベントを積極的に開催。
 - ✓ 広島県内初のスタジオプログラムの導入や筋力トレーニングマシンの充実を図る。



中須ゴルフ倶楽部（山口県周南市）



Surf Fit
JAPAN

VFRTM
WORKOUT

スポバル福山緑店の広島県内初導入のスタジオプログラム

PART1 会社の概要

PART2 2017年10月期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2018年10月期の個別業績予想

PART5 中期計画の概要

1. 個別業績予想（通期）

（単位：百万円）

摘要	2017年 （個別）	百分比	2018年 （個別）	百分比	対前期比
売上高	8,118	100.0%	9,215	100.0%	113.5%
売上総利益	1,404	17.3%	1,392	15.1%	99.1%
販売費及び一般管理費	1,197	14.7%	1,307	14.2%	109.2%
営業利益	207	2.6%	84	0.9%	40.8%
経常利益	163	2.0%	11	0.1%	7.3%
当期純利益	278	3.4%	695	7.5%	249.7%
1株当たり当期純利益	160円86銭	—	401円72銭	—	—

当期純利益は、特別利益に現在建設中の木材福山工場の生産設備等に関し、「次世代林業基盤づくり事業（合板・製材生産性強化対策事業）」に係る補助金として9億43百万円（2018年4月）を見込んでおります。

2. 通期業績予想の要旨

- ▶ 全体
 - ✓ 売上高は92億15百万円（前期比113.5%）、営業利益は84百万円（前期比40.8%）を見込む。
なお、セグメント別の営業損益につきましては、全社費用等の配分前で記載しております。
- ▶ 木材事業
 - ✓ 輸入為替レートは、1米ドル＝112円を見込む。
 - ✓ ニュージーランド産ラジアタ松丸太の現地価格は、最大消費国である中国の需要増により、今後も高値圏での推移を見込む。
 - ✓ 木材福山工場の稼働は、2018年5月度とし、段階的に生産量の増加を図り、フル操業は2018年10月度を見込む。
そのため、2018年5月～9月までの期間は、減価償却費負担の増加（月間約35百万円）が収益の押し下げ要因となるが、フル操業時には、営業黒字化を見込む。また、使用見込みのない現工場の固定資産については、耐用年数を短縮し、通常の減価償却費より約30百万円の減価償却費が増加（2017年11月から2018年4月）。
 - ✓ ニュージーランド松等の製品販売価格は、競合樹種のチリ産製品の販売価格が当期に入り上昇局面を迎えているが、保守的にとらえて前期比102.0%を見込む。
 - ✓ ニュージーランド松等の製品出荷量は、業種・地域・サイズ等をコントロールし、前期比105.1%の91千mを見込む。
 - ✓ 国産スギ・松・北海道カラ松等の商材販売量は、NZ松等製品の受注状況に応じて仕入先を活用するため、前期比86.0%（NZ松等の製品出荷量は5.1%増加）の43千mを見込む。
 - ✓ その結果、売上高は49億55百万円（前期比98.5%）、営業損失は95百万円（前期は営業利益1億6百万円）を見込む。
- ▶ ハウス・エコ事業
 - ✓ ハウス部門は、在来重量鉄骨造での工場・倉庫や学校関連を中心とした官公庁施設の伸長分野への営業強化を図る。また、過去の施工実績をアピールし、プレハブハウス以外のマーケットをトップ営業を交えて積極的に開拓する。
なお、当期に入り、在来重量鉄骨造での大型物件の受注を獲得（2018年10月上予定）。
 - ✓ エコ部門は、主として50KW未満の低圧案件への営業強化や官公庁の一般電気工事への積極的入札参加を図る。
 - ✓ 売電目的の太陽光発電所は、新たに1箇所の発電所が稼働を開始（2018年2月）し、年間売電収入は約4.7億を見込む。
 - ✓ その結果、売上高は37億8百万円（前期比144.7%）、営業利益は3億59百万円（前期比161.5%）を見込む。
- ▶ ライフクリエイティブ事業
 - ✓ ゴルフ場部門の来場者数は、過去最高を記録した前期比101.9%の46,200人を見込む。
 - ✓ フィットネス部門は、広島県内初となるスタジオプログラムの導入や筋力トレーニングマシンの充実を図り、当期末の目標会員数を1,400名（前期末会員数1,074名）とし、通期で営業黒字化を見込む。
 - ✓ その結果、売上高は4億54百万円（前期比108.9%）、営業利益は28百万円（前期比1,160.0%）を見込む。
- ▶ 不動産事業
 - ✓ 前期に販売用不動産を全て販売済のため、売上高は賃貸用マンション（4棟）の賃料収入のみを見込む。
 - ✓ その結果、売上高は96百万円（前期比88.5%）、営業利益は62百万円（前期比98.1%）を見込む。

27

3. 第2四半期累計期間業績予想

（単位：百万円）

摘要	2017年 第2四半期 (個別)	百分比	2018年 第2四半期 (個別)	百分比	対前年 同期比
売上高	4,232	100.0%	4,266	100.0%	100.8%
売上総利益	681	16.1%	638	15.0%	93.7%
販売費及び一般管理費	598	14.1%	633	14.9%	105.8%
営業利益	82	2.0%	5	0.1%	6.2%
経常利益又は経常損失(△)	62	1.5%	△29	—%	—%
四半期純利益	212	5.0%	649	15.2%	305.0%
1株当たり四半期純利益	123円00銭	—	375円15銭	—	—

- ▶ 詳細はP27の「2.通期業績予想の要旨」を参照
- ▶ 当期純利益は、特別利益に現在建設中の木材福山工場の生産設備等に関し、「次世代林業基盤づくり事業（合板・製材生産性強化対策事業）」に係る補助金として9億43百万円（2018年4月）を見込んでおります。
- ▶ ハウス部門の大型物件の完工を2018年10月度に見込んでいることや売電目的の太陽光発電所の利益率が高い第3四半期以降に売上高、営業・経常利益とも増加する見込みであります。

28

4. 株主還元 – 配当方針と実績

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要課題と認識しており、将来の事業計画、設備投資及び経営安定化のための内部留保に努めるとともに、業績に応じた適正な利益配分を考慮しつつ、安定的な配当を継続して実施していくことを基本的な方針としております。

摘要	中間配当 (円)	期末配当 (円)	年間配当 (円)	当期純利益 (千円)	配当性向 (%)
2012年10月期	0.00	5.00	5.00	65,692	13.2%
2013年10月期	0.00	0.00	0.00	△1,153,387	—%
2014年10月期	0.00	10.00	10.00	1,241,579	1.4%
2015年10月期	0.00	10.00	10.00	370,254	4.7%
2016年10月期	0.00	15.00	15.00	523,211	5.0%
2017年10月期	0.00	15.00	15.00	278,458	9.3%
2018年10月期 (予定)	0.00	20.00	20.00	695,385	5.0%

個別決算へ移行

安定的な配当を継続して実施することを基本的な方針としておりますが、木材福山工場の安定稼働後に具体的な配当性向の目標値を定めたいと考えております。

PART1 会社の概要

PART2 2017年10月期の個別業績

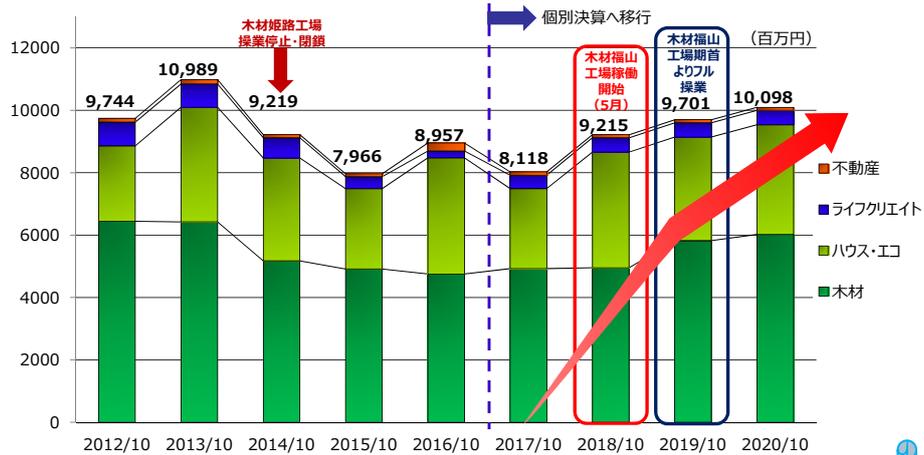
PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2018年10月期の個別業績予想

PART5 中期計画の概要

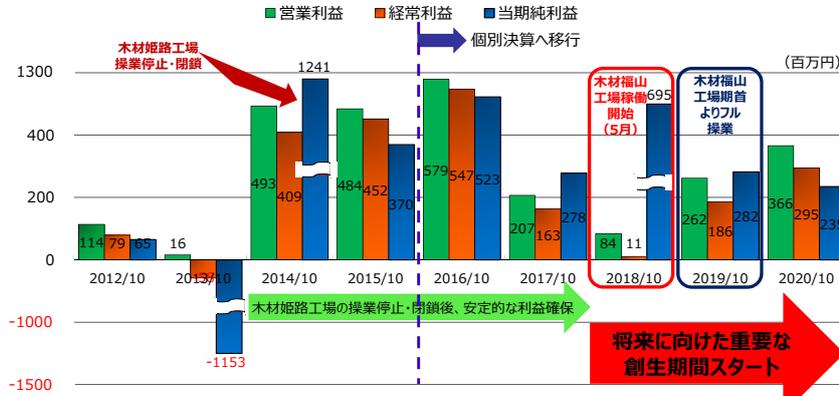


1. 売上高 (2016年10月期より個別数値)



- ▶ 木材事業は、原材料のニュージーランド産ラジアタ松丸太の仕入コストが中国の需要増による現地価格や船運賃の高騰、為替円安の影響もあり慢性的なコスト高が継続すると見込まれるため、**価格が安価で安定している国産スギ丸太の集荷を積極的にを行い、国産スギ丸太の生産比率を上げていく方針**。また、市場の需給バランスに合わせた生産を行い、適正価格による製品販売の徹底を図る。**今後はニュージーランド産ラジアタ松梱包用製材最大手から梱包用木材の製材及び販売の最大手として事業展開を図る。**
- ▶ ハウス・エコ事業は、施工管理要員の積極的な採用を継続し、施工体制の強化を図り、プレハブハウス以外の在来重量鉄骨造での工場・倉庫や学校関連を中心とした官公庁施設の伸長分野への営業強化を図る。

2. 営業利益、経常利益及び当期純利益



- ▶ 木材事業は、2019年10月期の期首より福山工場のフル稼働を見込んでおり、同工場では歩留率向上や納期短縮、労働環境の改善等により収益性の向上を図り、通期の減価償却費負担約420百万円を吸収し、営業黒字化を目指す。
- ▶ ハウス・エコ事業は、2019年10月期より一年を通して太陽光発電所がフル稼働し、安定した収益が見込まれるとともに、2020年の東京五輪までは好調な市場環境が予想されており、在来重量鉄骨造での工場・倉庫や学校関連を中心とした官公庁施設の伸長分野への営業強化を図る。また、過去の施工実績をアピールし、プレハブハウス以外のマーケットをトップ営業を交えて積極的に開拓する。

● 本資料お取扱上のご注意



2017年06月より広島空港搭乗口 (JAL側) に広告を行っております

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。

本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる

結果となることをご承知おきください。

▶ IR担当窓口



株式会社 オービス 経理部 井上清輝
 Tel. 084-934-2621 (代) Fax. 084-934-2624
 E-mail : ir@orvis.co.jp
 URL : http://www.orvis.co.jp